vol.42

2021
WINTER

ミスコンインタビュー

ミスター 猪俣和那さん

ミス 森栗七海さん

学生プロジェクト特集

富浦プロジェクト

溶荘 まちなかギャラリープロジェクト

すみだの巣づくりプロジェクト

笑顔のまち なこそプロジェクト

SDGｓ学生委員会 - 綾いと -

tot 工作室

読者プレゼント企画

新入部員募集！

芝浦工業大学学生情報誌 tot_vol.42


カスタム設定
マップ：Toyosu Omiya Tamachi
現在部員数：5
不定期会議：オン
通常タスク：オン
ロングタスク：オン
募集要項
経験：不問
・記事を書いてみたい人
・デザインに興味ある人
・illustrator 初心者
・tot に興味がある人
大大大大歓迎！！
いつでも相談可能！！
新入部員募集中！
ルール
Thinheat
tot
Stillrose
Wixphi
▲Twitter
▲Instagram
入部
公開ルーム
HP URL
https://tot-ch.com/
5/∞

学生プロジェクト特集

学生プロジェクトとは？

学生プロジェクトは、芝浦工大によって行われる、学生が自分たちの力で活動している団体を応援するプロジェクトです。
既存のサークル以外で新しくチームを組んだ団体が対象で、最大で年間 50 万円の補助を受けられます！

学生プロジェクトの４つの部門

1：大学ブランド力の向上を図る

「大学チェンジ部門」

2：ボランティア活動で地域の活性化を図る

「社会貢献部門」

3：グローバルな視点で活躍する

「グローバル部門」

4：これ以外のユニークな活動をする

「自由部門」

各団体は、応募時に４つの部門から一つを選択します。部門ごとに採択団体数の制限は設けていませんが、書類審査によって部門内順位とそれに準ずる援助金額が決定します。最終的には、学生プロジェクトを離れて活動できるようになることが目標です！

次のページから現在学生プロジェクトで活動している団体を 5 団体紹介します！インタビューを通して、それぞれが目的をもってコロナ禍にも負けずに熱い思いで活動していることがわかりました。新しく学生プロジェクトに参加したい学生や団体にも参考になるようなページになっているのでぜひ参考にしてください！

学生プロジェクト担当 豊洲学生課　澤さん

学生プロジェクトは、手を動かすことが好きな皆さんに活用していただきたい取り組みです。

日々の授業や卒業後の進路を考える中で刺激を受け、何か挑戦してみたいアイデアがあるのではないでしょうか。「夢」を叶えることも「困っていること」を解決するのも、そして「とにかく何かを作りたい」も正解だと思います。

また、多くの団体が長期に渡る活動を行っていますが、1 年以内に完結する小さなプロジェクトでも応募が可能です。

アイデアを育てるところから相談を受けますので、ぜひ皆さんの野心を聞かせてください。

もちろん、既に実施されているプロジェクトに参加することも可能です。詳細については、豊洲学生課までご連絡ください。

担当者：豊洲学生課 澤
（tgakusei@ow.shibaura-it.ac.jp）

富浦プロジェクト

概要

千葉県南房総市富浦で、国土交通省が推進している二拠点生活を推進させながら、富浦の魅力を伝えるために地元住民と協力しながら活動している団体です。現在 4 年目の団体であり、建築学部の学生を中心に 31 人で構成しています。

※二拠点生活とは、日ごろ都会の喧騒のなかで日常を過ごしている人が、自分の予定が空いた日に地方に出て、余暇を楽しみ方を多様化するものです。

活動のきっかけ

建築学部の授業で行われるプログラムの一つに富浦でのプロジェクトがありそれを続けたいということで、始めたのがきっかけです。

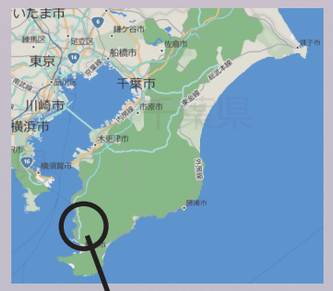
活動の様子

コロナ禍前は、市議会のかたにプレゼンをしたり、海辺で竹灯籠会をやったりしていました。そのような活動の中で、南房総市の方から声がかかってフォトコンテスト（背景写真は昨年度の優秀作品です。）を開きました。この活動では、ヤフーニュースに載って注目を集めたほか、南房総市さんが全面協力で景品として旅行券を出すなどの経済的支援をしていただいた経験もあります。

学生の身分だと地域住民とコミュニティを作るのが大変ですが、ある人から紹介を受けて鹿の肉を一緒に食べるなどして仲良くなって、そこからさらに紹介してもらうなどといった紹介が続く感じでコミュニティに入っていきました。あとは、プロジェクトの担当教授である山城先生が富浦で NPO の活動をしていることもコミュニティが広がっている一つの理由です。

この富浦プロジェクトの特徴として、各学年で違う色があることがあります。その学年の中でやりたいことをやれる良さがあるので、建築という枠だけでなく、視野を広くして新しいことに挑戦していきたいなと考えています。

富浦ってどこ？



千葉県南房総市富浦

富浦とは千葉県南房総市にある地域で、東京湾に面する自然豊かな地域です。



竹灯籠会での点火前の様子



地域住民との交流

現在の活動

現在はスケートボードパークの改修をメインの活動として行っています。この活動は、「graind land SUNZUI」さんのとのコラボ活動で、富浦プロジェクト以外にも「DaBo」というリノベーションを学生だけで行う学生団体や、社会人の有志団体の 3 団体が協力して行っています。

学生自身が設計ソフトを駆使して施工計画を立て、自分たちが施工しているのが特徴です。大学の授業で学んだことを活かしてリアルな体験ができています。この活動自体は、二地点居住とはあまり関係ないのですが、富浦の地域活性化として一役買えればと思って参加しています。



この木造一軒家のなかにスケートボードパークやお店をつくっていく

学生プロジェクトに参加したメリット

このプロジェクトは地域活性化も目的の一つとして活動をしているので、住民からの信頼が重要なのですが、ここで芝浦工大の名前を出すことができるので信頼を得やすいです。

授業じゃないので縛りがないんですけど、大学が関わっているからこその良い責任感があるので、それを味方につけて活動できるのは、将来的にも財産になるのかなって思います。

最大 50 万円得られるので、学費のもとを取ってやるという意気込みで申請書をかくのもよいかもしれません！

これからの計画

学生プロジェクトはずっと支援をいただくものではないので、学生プロジェクトを離れて活動をする予定を立てています。実はもっと前から資金を得る場所を探していたのですがコロナ禍によりその活動も止まってしまったため、この先活動が安定したら卒業をする予定です。この先は、芝浦工大のメンバー以外にも参加してインカレに近い形で、建築以外にも経営などのいろんな知識を持った人たちを入れてプロジェクトをやっていきたいと思います。

富浦プロジェクトは新規メンバーを募集しています。今は、建築学部の学生のみ在籍していますが、活動の幅を広げるためにも他学科のメンバーも募集しています。詳しくは下記のリンクをチェック！

HP:
https://www.tomiurapj.com

Instagram:
@tomiura.pj

Twitter:
@tomiura_pj

Facebook:
@tomiura.pj

Mail:
tomiura.pj
@gmail.com

取材協力
建築学部 4 年下田さん
建築学部 2 年定松さん

取材：猪爪、田山
編集：田山

まちなかギャラリー プロジェクト



溶荘の様子

概要

今年度から学生プロジェクトに参加している結成間もない団体です。東京都荒川区東尾久の木造 3 階建ての一軒家「溶荘（トケソウ）」で活動しています。

建築学部の学生が中心となってこの「溶荘」の改修をして、町のコミュニティに入りながらアーティスト滞在型のアトリエ兼アートギャラリーに変身させています！自分たちで改修の計画を立て、近くの解体現場からもらった廃材などを用いて施工までしています。そこにアーティストが住みながら同時に周囲との関係を作っていくことで、ギャラリーを通して地域の方とのコミュニティに入って地域との接続を果たそうとするのが目的です。

活動のきっかけ

もともと、自分が学外の団体「melted meadow] に所属して、アートをどう街に浸透させていくか考える活動をしていました。その中で、メンバーの一人が自分の住む家として探していたところ自由に改修できる面白い物件が見つけたことで、その住宅の改修をしていくことになりました。

今では、住みながらアートを作るというのを繰り返せる環境づくりはできているので、これからは、住宅としての機能を捨ててギャラリーとしてもっと貸し出していけるようなことを目標としています。

このプロジェクトの面白さは？

この活動は、町に新しい魅力を付け足せるとともに、アーティストやギャラリーに訪れた人、地域住民との多様な出会いを生み出していて、アートと人の場所を自らの手で作ることの喜びを共有できるのは面白い点だと思います。

また､改修するときに自分たちはありあわせのもので作っていて､それはその材料に対して「ここで拾ってきたものだよね」とか自分たちのストーリーができていて、自分たちの世界観ができていって僕たちがどういう活動をして人柄なのかが一目でわかるようになるのかなって思っています。

あと、そこに住みながらアート展示の方法を考えると、自分たちでできる範囲でしかできない限界があるんですけど、その限界の中でどうやるかっていう面白さがあります。作るときも、すぐに部材に戻せるような作り方をしていて、反省やフィードバックを簡単にできるようにしています。

アーティストが住んでいる意味としては、生活しているときに「あそこに絵があったらいいよね」とかそういう発見をしたときにその日につくることもできてしまうのがよいことですね。

活動の様子

周囲の解体する家から解体材をもらってきたり、自分で土壁を塗り替えたりして元のぼろぼろの家とは思えない家に変わっています。この家では、古い木造の家なので、減らしていくデザインをとっていて三階建ての家の 2 階部分の屋根をはがして吹き抜けにして構造むき出しにしているんですけど、そうすると環境装置として欠点があります。だから、これから他の人に貸し出すことも視野に入れて断熱材を自分たちで入れたり、あとはギャラリーの部分からは住居部分の生活感が出ないような工夫をしていく予定です。

過去には、一度アーティストを呼んで展示会を開いたことがあります。その時は生活の中でコミュニケーションをとった近所の人ものぞいてくれました。その時に、この活動の意義を一緒にお話しできたのは町の中でギャラリーをやった価値を感じられました。

これからの活動としては、金さんというアーティストとつながりを持ったので、実際に住んでもらってアートをどう見せるのかを検討しながら、絵を飾るための什器を作っていくという予定です。



自分たちで設計し解体現場からもらった材料で回収を進めていく



完成した台、他の階で使われていた畳を使い、さらに下に白い石を敷いたことで明るい部屋に生まれ変わった。

学生プロジェクトに申請してよかったこと

今年、学生プロジェクトに申請したのは、さらなる住宅の改修のためにも芝浦の学生も一緒にその住宅の改修を手伝ってほしいと感じたのと同時に、もっとこの活動が認知されたらいいなと思ったからです。学生プロジェクトに申請してからは、支援してくれるバックがいることの大きさ、あとは広告的に使えることが大事だなと感じています。

また、学生プロジェクトは授業で学んだことを実践できることの良さがあるかなと思います。ぼくらも建築をアカデミックに学んできてはいますけど、それを実践しているってことが本当に大切だなと思っていて、結構人を巻き込めるプロジェクトだなと思っています。あとは、密集住宅のなかで音を出して作業しているんですけど、周りの方がもっとやりなよって興味をもっていただけるとか僕たちが想定していなかった価値を発見できました。

「まちなかギャラリープロジェクト」は新規メンバーを募集中です。展示会も行っていますのでぜひ足を運んでみてください
インスタグラムもやっています！ @tokesou.tokyo

取材協力　代表　大学院修士 2 年栗田さん　取材　猪爪、田山　編集　田山

学生プロジェクト インタビュー



↑インタビュー時の様子

-- 取材協力 --

すみだの巣づくり

プロジェクト

山本 紘平 様

――なぜ、すみだの巣づくりプロジェクトに入ろうと思いましたか？

1年次の中村先生の授業にて、すみだの巣づくりプロジェクトについて知りました。私は、もともと地域の防災活動に興味があり、私の自宅が墨田区に近い為、他の学生プロジェクトより積極的に活動できると考え、参加しようと思いました。

――すみだの巣づくりプロジェクトではどのような活動をしていますか？

すみだの巣づくりプロジェクトでは、3つの柱を軸に活動しています。その柱とは、「防災教育」、「コミュニティ」、「ものづくり」です。

1つ目の「防災教育」では、防災遠足というイベントをしています。防災遠足とは、避難訓練と遠足を組み合わせたものです。それは、実際に遠足として墨田区を散策するイベントです。この趣旨は〝地域の魅力を楽しみつつ、防災設備や避難経路を確認していく〟ことです。一昨年までは、実際に散策していました。しかし、昨年度、今年度では、コロナの影響により、オンラインでの開催になりました。

2つ目の「コミュニティ」では、カエルキャラバン、宿題ＤＡＹをメインにイベントをしています。カエルキャラバンでは、おもちゃ交換会と防災訓練を組み合わせたイベントです。防災遠足と同様に、今年度と昨年度はオンライン開催となり、動画の作成、掲載を行いました。また、宿題ＤＡＹでは、夏休みと冬休みに開催される、子供の長期休みにでる宿題を教え、それが終了後、防災の知識をレクチャーするお楽しみ会です。今年度は、コロナの影響で開催しない方針です。

3つ目の「ものづくり」では、防災や避難する際に役立つような商品を考案、作成する活動です。今年度では、防災観光ふろしきというふろしきを作成しました。それは、防災マップや観光マップとして使え、且つ風呂敷として普段使いできる商品となっています。



←防災観光ふろしき（ホームページより）

――今まで行ってきた活動で紹介したいプロジェクトはありますか？

先ほど申し上げた〝防災観光ふろしき〟です。今年度にて、防災観光ふろしきをリニューアルしました。昨年度までは、墨田区の北部のみでしたが、今年度からは、南部のマップが書かれた防災ふろしきも発売されました。

――今行っているプロジェクトはどのようなものですか？

メインの活動としましては、3つあります。一つ目は、ＮＰＯの方と協力して防災観光ふろしきの活用・知名度アップのための企画を進めること。2つ目は、実際の中高生への防災への意識をアンケート調査する。3つ目は、カエルキャラバンという墨田区で行われるイベントに参加するための動画作成です。どの活動においても、外部の方と関わることが多いです。

――墨田区以外の周辺地域への活動拡張は視野に入れていますか。

最近、周辺地域への活動を拡張しようか検討していました。しかし、コロナの影響により、活動縮小やイベントを行えない状況です。よって、現在は、墨田区のみでの活動ですが、コロナが収縮次第、彩度周辺地域での活動拡張を検討しようと思います。

――墨田区の好きなところを教えてください。

私は、墨田区にある景色がとても好きです。墨田区の下町ならではの街並みがとても風情があると思います。また、スカイツリー、大横川親水公園などの観光スポットが多いこともポイントです。

また、私は芸術にも興味があります。それに関して、墨田区は、葛飾北斎の出身地であるため、北斎美術館があります。ここは、妹島和世さんという有名な建築士が設計されており、建物の見た目も建物内部も楽しめる場所になっています。墨田区に訪れる方がいらっしゃいましたら是非足を運んでください。

――活動をする際にプロジェクト内で大切にしていることは何ですか？

すみだの巣づくりプロジェクトを含めた学生プロジェクトは、いわばボランティアの色が強いため、〝強制されてやるのではなく、自らの意思で参加することが大切だと思います。そのために、リーダーである私は、プロジェクトに参加している皆に、自分の活動がプロジェクトを動かしていることを意識してもらえるようにし、全体の活動を把握するようにしています。

――新規プロジェクトなど宣伝したいプロジェクトがあれば教えてください。

宣伝したいプロジェクトといたしましては、防災観光ふろしきでのクラウドファンディングを進めております。

――今から学生プロジェクトに参加しようと思っている学生に一言お願いします。

おすすめポイントとして3つあります。

1つ目は、長年にわたり積み重ねてきた実績があることです。私たちの学プロは、長年の歴史と多くの実績があります。しかし、年期があるからといって、同じことの繰り返しではありません。プロジェクトごとにより新しい発想や今までになかったものを生み出そうとしています。その考えのもとで多くの実績を残しています。こういった創作をやりたい方はぜひ学生プロジェクトに参加してほしいです。

2つ目は、様々な人と交流できることです。例えば、ＮＰＯなどの企業や地域団体、地元の方々との関りができます。また、対面でのイベントが再開できるようになれば、地元の子どもたちとのふれあいを楽しむことができます。このように、多くの方々との交流があります。

3つ目は、プロジェクト全てを自分たちの力で行うことです。本団体では、基本的に、先生の力を借りません。企画立案から外部との打ち合わせ、運営まで全て自力で行います。ここで培った企画力や運営力は、就職活動や他の団体での企画など様々な場面で生かすことができます。

ここまで、学生プロジェクトのおすすめポイントとして3つ挙げました。しかし、学生プロジェクトの良いところは、たくさんあります。それらを自ら学生プロジェクトに参加、体験してほしいです。

――編集後記――

本記事では、すみだの巣づくりプロジェクト（以下 すみだの巣）を紹介しました。まず、インタビューにご協力してくださった山本さんに感謝申し上げます。

私の思うすみだの巣の目玉の活動は、やはり「防災観光ふろしき」でしょう。本記事で述べた通り、防災マップや観光マップなどの地図としての役割と、普段使いできる風呂敷の役割を担うことができます。すみだの巣が活動している墨田区には、様々な観光スポットがあり、それを見ながら、いざ災害が起きてしまったときに、防災マップとしても風呂敷としても使える防災観光ふろしきはとても便利でしょう。皆さんも墨田区で刊行する際には購入してはいかがでしょうか？

取材　井島　宮﨑

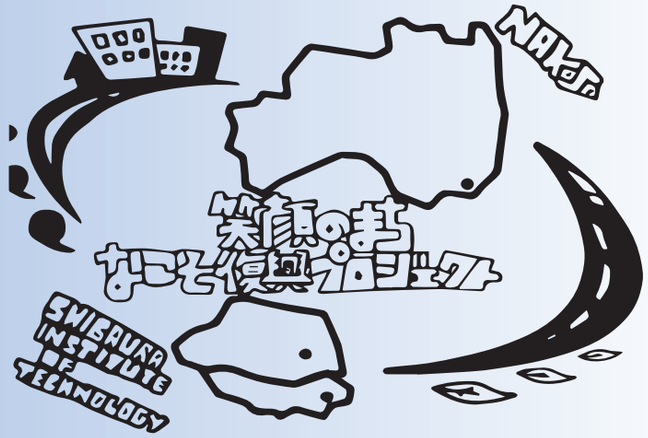
編集　宮﨑

芝浦工業大学　学生プロジェクト　インタビュー企画

笑顔のまち

なこそプロジェクト

今回は東北のなこそ地域にスポットをあて活動している学生プロジェクト団体の一つ「なこそ」の代表である片山さんにインタビューをさせていただきました



「なこそ」は東日本大震災をきっかけに7年前に設立されて以来、地域復興や活性化に関わる様々な活動に取り組んできた。双葉地域と植田地域に分かれ、双葉地域では復興公営住宅内でのコミュニティ作りに関わり、植田では商店街の活性化を目指して活動を進めている。他にも山を開拓して遊歩道を作ったり、それに基づくトレイルマップの作成やその企画に携わってきた。昨今のコロナの影響で活動が制限され思うようにできなかったものも多くあり、その中でもできることを見つけ活動している。制限が緩和され活動の自由度が上がる今後に大いな期待が持てる団体である。最終的には学生が去った後でもコミュニティが自立していくことを目指していると代表の片山さんは語る。

片山さんがこの団体に加入したきっかけは自身が青森出身であることから震災について気にかけていたこと、福島に少ない金額で訪れることができるということである。今までの活動をふり返り、片山さん（以下　片山　と省略）は次のように話す。



2018 年　8 月　　左義長



2018 年　5 月
植田商店街歩行者天国

片山：2年前の夏祭りが印象に残っています。参加者も多く花火も上がったりと非常に賑やかな雰囲気でした。また未来のライフセイバーを育成するという目的もありとても充実した活動でした。

tot：今後やって行きたいことを教えてください。

片山：震災から10年がたつということもあり、区切りとしてこれまでのなこそのあゆみをまとめたいです。また復興中心の活動でしたが地域活性化を中心とした活動へ段々とシフトしていければいいと考えています。

tot：今後の課題があれば教えてください。

片山：やはりボランティアには限界があるということを感じます。また活動費用との兼ね合いも考えていかなければなりません。自分たちで運営し利益を得、それを地域に還元する流れを作るのが今後の課題ですね。

tot：なるほど。ありがとうございます。

学生プロジェクトに所属し活動を行っているなこそ。そこで学生プロジェクトについても聞いてみた。



2018 年　9 月
岩間防災緑地完成記念事業

tot：学生プロジェクトに応募したきっかけは何ですか？

片山：今後コロナの影響が少しずつ弱まれば活動の幅が広がるのではないかと期待しています。それに伴って遠征しての活動も増えると予測しています。もしその際の交通費や宿泊費を別の所に回せればさらに活動の幅を大きくすることができると思っています。また現地のニーズを把握できるアンケートがあるのも魅力でした。なこそ地区単体でアンケートを取るのはなかなか難しいので。

tot：なるほど。実際に学生プロジェクトに参加してみて変わったことはありますか？

片山：これはコロナ渦の影響も関係しているのですが積極性を意識して動くようになりました。自分たちに仕事がくることが当たり前ではなくなりました。自分たちで考え行動することがより求められるようになったと思います。活動としては現地の高校と連携を取り、興味を持ってくれた高校生に活動に参加してもらう高大連携ができるようになりましたね。

tot：学生プロジェクトに興味を持っている団体に向けてのオススメポイントなどはありますか？

片山：やはり一番は大人との関わりが多いことですかね。サークルとことなる点とも言えると思います。実際の社会の問題に触れることができるのも大きな魅力の一つです。

tot：最後に読者にひと言お願いします！

片山：一緒に活動する仲間大歓迎です！特に2年生に来ていただきたいです。これからはより実地での活動が大事になってくると思います。大学の授業でも学ぶＳＤｇｓの知識を付けることもできますよ！

震災から10年以上がたとうとしている。あの出来事を風化させず後世に伝えていくためにも、あの日を体験した私たち学生が中心となって動いて行くことは非常に大切なことだと改めて強く感じた。比較的自由な時間がある大学生だからこそ社会問題に目を向けて動いてみるのも将来に役立つことはもちろん、いい思い出になるのではないだろうか。

ＳＮＳ・ホームページも要チェック！ホームページは「芝浦工業大学　なこそ」で検索！

取材／井島　編集／中村



学プロインタビュー企画

綾いと

代表 中西さんにインタビュー！

『学生プロジェクトに応募したきっかけ』

元々自分主体で運営、行動することに興味がありました。学校側からの支援を受けつつ、実際に行動できるのは魅力だと感じたからです。

『学生プロジェクトに参加したい団体におすすめしたいポイント！』

行動を実現することができる人にはおすすめです。学生団体ならではのことができます！

『綾いとはどのような団体ですか』

SDGsは学生の中での認知度は高いですが、達成に向けて実際に行動している人は少ないんです。綾いとは「自分たちで行動する意識を持ってもらう」ということを目標に3、4年前に20～30人ほどが集まって開始された団体です。

『今までの活動を教えてください』

昨年はコロナの影響で活動が出来ませんでした。今年は少し緩和されて、ららぽーとでワークショップや環境への話などを対面で行うことが出来ました。

『週の活動』

綾いとはイベントごとに5人ほどのグループに分かれて活動をしています。グループごとに定例会を開き、進捗状況の報告、イベントの周知等を行っています。

『気合を入れているイベント』

12月に行われる次世代SDGsフォーラムです。企業や行政の方をお招きしてオンラインで開催（以前はキャンパスで開催）するので気合入ってます！

SDGsとは

SDGs（持続可能な開発目標）は、2015年に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。2015年から2030年までの長期的な開発の指針として、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。



地域とのつながりを大切にしてるよ！！！

『今後やりたい活動』

SDGsの11番目の目標である『住み続けられる街づくり』のために、交流を通して地域と大学のつながりをもっと強めることです。snsや他団体とイベントで人を集めたいです！



▲次世代 SDGs フォーラムの様子

『最終目標』

今はコロナ禍で厳しいかもだけど、学生だけでなく地域の人も参加できるイベントをしたいです！

▲Twitter

▲Instagram

KAZUNA TAKAHASHI

NANAMI MORI



ミスターグランプリ

猪俣和那さん

sit_21_mr3

ミスター芝浦グランプリ　工学部１年 猪俣和那さん。気に入っているベストを取り入れつつも白黒でまとめすっきりとしたコーデがポイントです。芝浦祭のイベントはどれも楽しい！悩むならまず参加してみてほしい。と話す猪俣さん。そんな彼のミスコン出場の理由は色々なことに挑戦してみたいという気持ちからだったそうです。インスタやミクチャ配信などミスコン出場者だからこその活動に戸惑う部分もあったそうですが、芝浦だけでなく他大学の学生とも交流ができたりとここでしか体験できないことも多くあったと話します。ミスコンを通して自分を多くの人に知ってもらえたり、出演側の気持ちを知れたり、宣材写真の撮影など貴重な体験も多くありました。現在、電子工学科に在籍しＣ言語や電子回路の勉強に力を入れつつ趣味のバンドにも積極的に取り組む猪俣さん。「芝浦祭のイベントはどれも楽しいです。悩むなら是非挑戦してみてほしい」と話します。そして彼も全国のミスコンに参加するそうです。挑戦者の気持ちで挑みたいと意気込みを語ってくれました。是非頑張ってほしいですね。



ミスグランプリ

森栗七海さん

sit_21_miss2

ミス芝浦グランプリ システム理工学部２年 森栗七海さん。暗い空間でも映える白に女の子らしいニット素材で、編集部がお願いした「水族館デート」にぴったりなコーデで登場です。応募のきっかけは堂々とした女性に憧れを持ったからとのこと。約６ヶ月間グランプリに向けて走り抜けました。初めてのことも多く決して簡単なものではありませんでした。そのかわり得るものも多くあったそうです。例えば、自己肯定感が上がったこと。ミスコン出場者として見られることが多くなり、それを意識し行動に移すことで結果として自分磨きができたと話してくれました。電子情報学科で学ぶ森栗さん。将来の夢はゲーム関係の仕事。自分の作ったもので誰かを楽しませることができたら嬉しいと語ります。そんな森栗さんから読者のみなさんに向けてメッセージを頂きました！「ミスコンですが特に女子はエントリー者が毎年少ないです。やって損することは決してありません。打ち込めることが欲しい人は是非挑戦して欲しいです。」今後全国の大学生ミスコンに挑戦される森栗さん。更に素敵な姿を見せてくれること間違いなしですね。

tot工作室

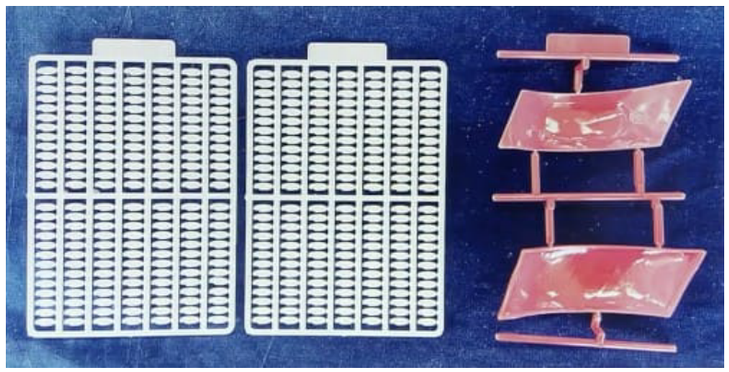
寿司プラモデル編

今回作るものは
こちら



お寿司のプラモデル！

パーツこちら

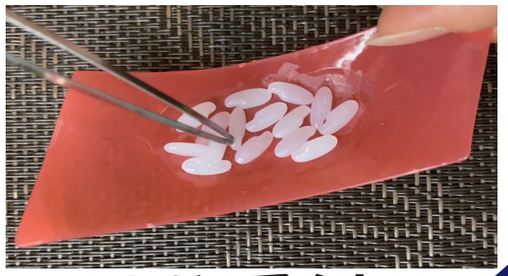


パーツの数が
366個！

工程1
パーツを外す



工程2
マグロの上に
米をのせる



これが一番大変..

完成！！



編集後記

作業時間は1時間半ほどでした。
思っていた以上に大変でしたが、
達成感がとてもすごかったです！
皆さんも作ってみてください！

編集　宮﨑

編集後記
EDITOR'S NOTE

01

編集長
3年　田山康一

編集長としてそろそろ面白い記事を書きたいものですが、まだまだ修行が足りなさそうです。面白い文は書けないけど面白い記事との出会いは増えたので学べるように頑張ります。

02

2年　中村仁美

今回は初めて表紙を担当させてもらいました。冬っぽさを意識しましたがどうでしょうか。今年の冬も寒いです。皆さん体調には気をつけて下さいね。

03

2年　宮﨑陸矢

今回は、すみだの巣プロジェクトさんを取材させていただきました。外部の方との交流が多いため、一つ一つの活動がしっかりとしています！興味があればぜひ参加してください！

04

1年　安里好生

芝浦祭でtotを知り、即入部からのいきなり冬号の制作に参加させていただきました。初めてのillustratorであたふたして、締め切りまでになんとか"ぽい"ものが出来ました。温かい目で見ていただけると幸いです。

05

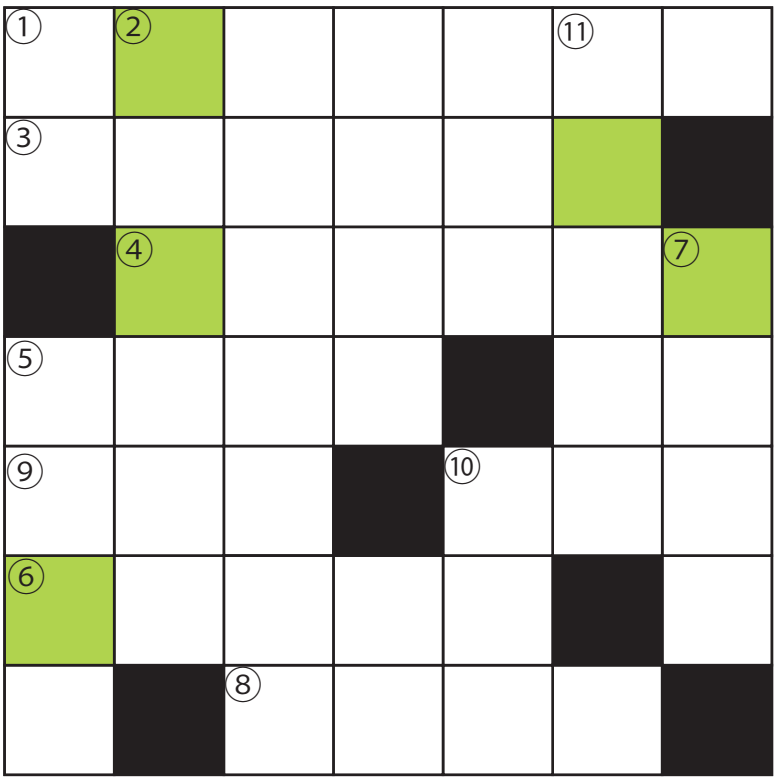
4年　井島有果子

気づいたら卒論に追われる時期になってしまいました。この４年間たくさんのことがありましたが、totで活動できた時間はかけがえのないものになりました。これからも読者の皆さんと共により良いtotを作り上げていく所存です！



読者プレゼント企画

クロスワードパズル



ヨコの鍵 →

①大宮キャンパスの最寄り駅

③都道府県別人口ランキング第５位の都道府県（2020年）

④海にもぐって他の船を攻撃する船

⑤服が汚れたらすることは？

⑥さいたま〇〇〇駅
幕張〇〇〇

⑧宇都宮線の終点の駅

⑨和服の別名は？

タテの鍵 ↓

②昔、将軍が勝ったときにその勝利を記念して建てた門。ナポレオンがフランスに造ったのが有名。

⑤江戸時代旅をするときに通る場所。関東では箱根が有名

⑦有名なSNSのひとつ〇〇〇〇グラム

⑨コロナ禍で外に出るときに必ず身に着けるのは？

⑩授業を履修したあと、合格したら得られるもの。芝浦工大は基本的には年間49〇〇まで。

⑪ロッテから発売されている清涼菓子は？

答え ⑥ ② ⑦ ④

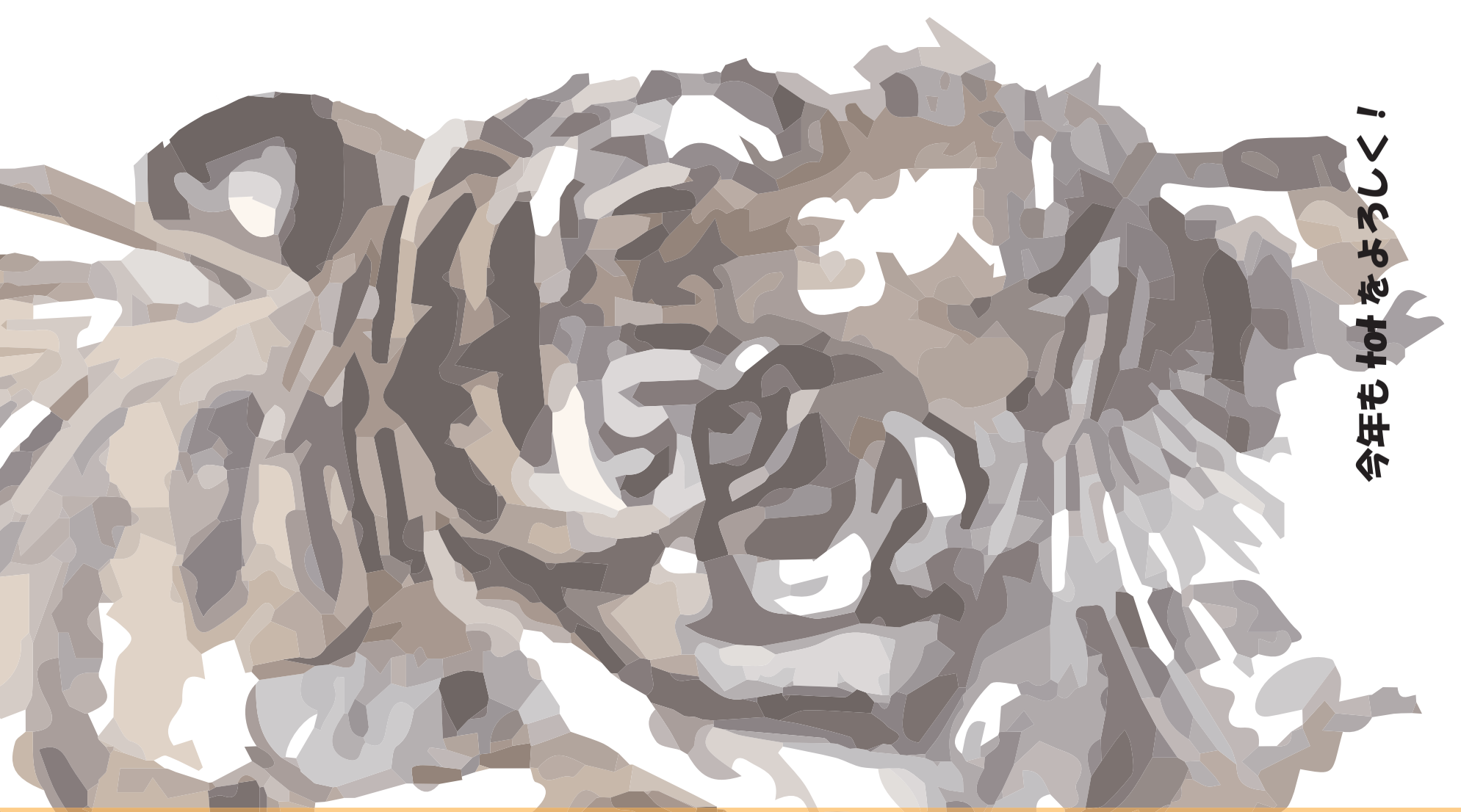
正解者プレゼント



正解者の中から抽選で２名様にモバイルバッテリー Anker PowerCore Fusion 5000 をプレゼントします。詳しくは下の応募方法をご覧ください。

応募方法

右のQRコードを読み込んでアンケートにお答えください。最後にパズルの答えを書いて応募してください。当選者にはこちらから学籍番号のメールにて連絡を差し上げます。※芝浦工業大学に通う学部生、大学院生にかぎらせていただきます。



今年も tot をよろしく！

tot

vol.42　2022 年 1 月 12 日発行　編集・発行：tot 編集部　お問い合わせ先：info@tot-ch.com
Web サイト：https://tot-ch.com/